えんがわ通信

「えんがわ」は、
被災者の仕事に関する支援を行う施設です。
その名前には、人と人とのつながりが生まれ、
「縁」が「輪」のようになって広がってほしい
という願いが込められています。

第６号　２０１２年６月

発行＊一般社団法人パーソナルサポートセンター
就労支援事業部
住所／仙台市青葉区二日町6-6 シャンボール青葉2階
電話／０２２－３９５－６２５８
WEB／http://www.personal-support.org/

就労支援相談センター本格始動

被災者の再建サポート

仙台市PSC

仙台市と一般社団法人パーソナルサポートセンター（ＰＳＣ）は６月18日、被災者を対象とした就労支援施設「わっくわあく」を青葉区二日町に開所させた。専門スタッフが、求職者と面談をするなどして、一人ひとりの希望や実情に合わせた支援策を提供。生活と就労の両面から、被災者の「暮らしの再建」をサポートする。

施設では、スタッフが相談に訪れた求職者と面談をする中で、収入やこれまでの職歴などを把握。それぞれの希望や適正に合わせたプログラムを作り、職場体験を実施したり、面接や履歴書作成の助言をしたりする。仕事先が確保された後も一定期間、支援を続けることで、不安を解消し、着実な就労先の確保と、生活再建を後押しする。

被災者の再建をサポートする就労支援相談センター「わっくわあく」＝青葉区二日町

「わっくわあく」は、被災者が「ワクワクしながら前進し、良い仕事に巡り合えるように」という願いを込めて命名した。

青葉区二日町のマンション2階に約２００平方㍍のスペースを確保。スタッフ14人が、求職者の相談業務にとどまらず、日常生活の見守りや生活訓練、就労・職場体験先の確保などを一体的に行っている。

これまで就労支援に取り組んできた太白区あすと長町のコミュニティ・ワークサロン「えんがわ」では、被災者の収入と居場所を確保するため、継続してさまざまなプロジェクトに取り組む。

現在、化粧品製造販売「あきゅらいず美養品」（東京都三鷹市）の協力で「キャンドルプロジェクト」を実施しているほか、京都在住の山中和子氏（メタルファイバーアーティスト）とタイアップし、銅やステンレスなどの金属糸を使ったアート作品の制作プロジェクトを展開している。

「わっくわあく」で相談するには事前に予約が必要で、平日の午前９時半～午後５時に受け付けている。連絡先は０２２（３９５）６３２３。

イベント参加者募集

ＮＰＯ法人「アース・アイデンティティ・プロジェクト」（ＥＩＰ）＝東京都太田区は、「世界一大きな絵２０１２」の製作イベントの参加者を募集している。日本を含め世界37カ国の子どもたちが木綿の布に描いた絵（横１㍍×縦５㍍）約60枚を縫い合わせて、「世界一大きな絵」を完成させる。

ＥＩＰによると、ことし８月に開かれるオリンピックに合わせ、英国・ロンドン市内で披露する予定。

作業は仙台市内で実施。仮設住宅などに住む被災者を対象に参加者を募る。作業は約３時間で、参加者にはＥＰＩから謝礼が支払われる。７月初旬から中旬にかけての開催を目指している。ＥＩＰの河原裕子会長は「子どもたちが描いた絵を世界中のみなさんに披露するため、協力してほしい」と呼びかけている。連絡先は０３（６７１５）７８８８。

開所式で期待と意気込みを語る

ＰＳＣは、就労支援相談センター「わっくわあく」で６月１日、開所式を開いた。約30人が集まった式では仙台市やＰＳＣの幹部らが、今後の活動に対する期待や意気込みを語った。一部を紹介する。

◇

仙台市市民局　上田昌孝　局長

「復興はこれから長いスパンで考えていかなければならない。働ける場を設けるためには、こうした取り組みが本当に心強いと感じている。みなさんの力を足し算ではなく、掛け算でパワーを大にしていきたい」

◇

仙台市復興事業局　寺内譲　次長

「被災された方々が生活再建を実感するには、三つ必要なことがある。一つは心と体が健康であること、二つ目は恒久的な住まいの確保、そして三つ目は将来の収入の見通しがきちんと立てられるようになることだと考えている。就労の相談支援に踏み込んだ取り組みは、非常に重要。早く被災された方々が生活再建を実感していただけるよう進めていきたい」

◇

パーソナルサポートセンター　立岡学　理事

「心に重い思いを抱え、誰かの力がないと就労までいけないという人たちを後押ししていきたい。一人でも多くの方が仕事に就いて、人生、生きがいを取り戻すことができるよう今こそ、動かなければならないと考えてる」

わっくわあく　相談スタッフ紹介

青葉区二日町にオープンした就労支援相談センター「わっくわあく」。その相談窓口で、みなさんの悩みを聞いたり面談を行ったりするスタッフとはどんな人？パーソナルサポートチームのメンバー５人を紹介します。

熊谷智美（チーフＰＳ）

震災後は食糧品や日用品のお届けや、医療面のサポートなどをしていました。

コミュニケーションに関わる様々な仕事をしており、発声・発音、コミュニケーション、原稿作成などのワークショップも行ってきました。

なにか少しでもお役にたてるとうれしいです。

＊

鎌田はるみ（ＰＳ）

公立小学校の講師として子どもたちと関わってきました。

鉄道に乗ること、山歩き、温泉が好きで、野山の花のスケッチがマイブームです。

自分の足で歩いて確かめるタイプで、確かめたことを忘れないように日々闘っている50代です。よろしくお願いします。

＊

大澤啓介（ＰＳ）

以前は、あすと長町と川内の借り上げの仮設住宅を絆支援員として訪問していました。体を動かすことと、コーヒーが好きです。

面談の際にはリラックスできる雰囲気づくりを心がけます。一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。

＊

亀山京子（ＰＳ）

震災時、津波被害を受けた地域で仕事をしていました。津波も見ました。車も流されました。安置所もまわりました。

助かった一人としてできることをしようと、５ケ月間沿岸部でボランティアを続けました。

微力かもしれませんが、就労のお手伝いができればと思っています。

＊

白岩徹（ＰＳ）

体を動かすのが好きで、スノーボードやマリンスポーツが大好きです。今年はフルマラソンを走ることが目標です。

マラソン同様、支援も歩幅を合わせ一歩一歩ともに伴走出来れば、と思っております。どうぞお気軽にご相談ください。

※ＰＳ＝パーソナルサポーター

「えんがわ」な人々⑤

千葉　詩織（ちば　しおり）

昨年５月までペットショップの販売員として働いていました。一児の母として、被災地の子育て支援に関わる仕事がしたいとの想いから、昨年８月にＰＳＣに入社しました。

絆支援員として約２カ月間、扇町１丁目仮設住宅での見守り活動の中で、たくさんの入居者の方々の「がんばる」に出会いました。そして同年11月には「えんがわ」のスタッフとして、子育て支援のほか、封入作業や農業体験のプロジェクトを担当する中で、たくさんの元気をもらいました。

今度は、これまでお世話になった方々、そしてこれから出会う多くの方々の生きがいづくりや就労支援を通して、私にしか出来ないかたちで元気を与えていきたいと思ってます。

「わっくわあく」の所在地

市営地下鉄
勾当台公園駅北１より徒歩３分
北四番丁駅南１より徒歩５分

市バス・宮交バス
県庁・市役所・青葉区役所前
停留所より徒歩２分

TOPICS（7月）

1 就業やキャリア等に関する個別相談

専門のカウンセラーによる、職業や進路・キャリア等に関する個別相談（１人５０分）を行います。
（就職のあっせんではありません）

■日時：7月２５日（水）　13：00～20：00
■場所：ＡＥＲビル６階 情報・産業プラザ
■対象：① 学生・求職中の方　② 在職者（30代まで）
■定員：２８名
■申込締切：７月１８日（水）必着

2 ジョブ・トライアル ～仕事体験研修～

18～29歳までの仕事を探している方、業界・業種について知りたい方、就業体験をしてみたい方等を対象とした、地元企業での仕事体験研修（最大10日間）です。

■事前研修＆交流会（7/３１、8/１）→ 個別相談 → 合同面接会（8/7）→ 事業所にて研修
■場所：AERビル5･6階 情報･産業プラザおよび各事業所
■対象：18～29歳の学生･求職中の方等（高校生除く）
■申込締切：７月２３日（月）必着

＜申込方法＞

1 郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、郵便・ＦＡＸ・Eメール等でお申込み下さい。
2 下記問い合せ先 HP や、市役所「市民のへや」、各区役所、図書館等に設置の申込書にご記入の上、郵送または持参によりお申込み下さい。

※いずれも申込締切後に応募者全員に決定通知のご連絡をいたします。（応募多数の場合抽選）
※いずれも、雇用保険の失業認定の際に求職活動実績として申告できます。

■お問合せ先：（公財）仙台市産業振興事業団
TEL：022-724-1212、FAX：022-715-8205
Eメール：koyoushien@siip.city.sendai.jp

のびすく仙台

◎利用できる人　主に乳幼児とその家族
◎住所　仙台市青葉区中央２丁目10番24号
（仙台市ガス局ショールーム３階）
◎問い合わせ　TEL：022－726－6181
FAX：022－214－5071

「夏！バザー」（申込み不要）

子ども服や、雑貨、絵本を中心にバザーを開催します。ほとんどが１００円での提供です。

■日時：7月４日（水）　10：30～13：30
＊大きめの袋を持参ください。

グループ相談「子どもの歯について」 6/28～申込開始

かわいい歯がはえてきたら、虫歯のことが心配…。母乳や食べ物のこと、歯磨きのこと一緒にお話しませんか？

■日時：7月１２日（木）　10：00～11：30
■講師：青葉達夫さん（青葉子どもと親の歯科医院院長）
■対象：乳幼児の保護者
■定員：１５名（子どもと一緒可）

※場所はいずれも、のびすく仙台こどもひろば

災害子ども支援センター

被災家庭と子どもの支援を目的としたセンターができました。子どもの預かりや、奨学金情報など、幅広い情報を提供します。また、全国からの支援物資を必要な方にお分けします。２階には託児室を設けています。１時間700円ですが、求職中の方などに減免があります。お茶なども用意しておりますので、まずはお気軽にお問い合わせのうえ、お越しください。

■開館時間：９：３０～１７：００
■電話：０２２－２９２－５２９０
■住所：仙台市宮城野区幸町４－７－２
■問い合わせ：災害子ども支援センター
（みやぎいのちと人権リソースセンター内）

被災地を語る⑤

地域主体の震災復興と未来に向けた共生地域の創造を目指して

一般財団法人
共生地域創造財団　**酡島 一匡** 事務局長

私たちは生活困窮者の支援を行うＮＰＯ法人と二つの生活協同組合が設立した団体です。震災直後から現地にスタッフを派遣し、物資輸送などの支援を展開しました。

「支援活動を通じて地域の新たなセーフティネットを作りたい」と意気込む酡島氏

私自身は震災から３日後の３月14日、東京からトラックに物資を詰め込み、現地に入りました。

最初に訪れたのは東松島市でした。津波によってがれきの山となった光景を目の当たりにし、これからどんな過程を踏みながら復興していくのか？自分には何ができるのか―。絶望にも似た感情を抱きながらも、現場を歩き、多くの方々の話を聞かせていただきながら、手探りで活動を続けてきました。

これまでに大きく三つの柱で支援活動に取り組んできました。

一つ目は、人的な支援です。行政や他団体の支援の手がなかなか行き届かない沿岸部に居住している方々や、「在宅被災者」と呼ばれる仮設住宅に入居せずに半壊状態の家に住み続けている方々を主な対象に、支援を行っています。また、岩手県大船渡市内では今年５月から、地元の方５人を雇用し、在宅被災者の見守り活動を開始しました。

二つ目は、産業復興支援です。漁業では、石巻市牡鹿半島にある折浜・蛤浜の復興に向けて、土砂の清掃や海岸沿いのがれき処理を行いました。また、生協のネットワークを生かした販売支援も検討しています。農業分野では、亘理、山元両町のイチゴ農家の支援を行っています。津波で被害を受けた畑で、イチゴの生産を再び始めるには、多くの時間と費用が必要です。その前に、農家の方が収入を確保できるよう技術者に指導をお願いし、これまでに経験のないトマトの栽培を始めました。

三つ目として、手仕事の創業支援を行っています。

１年以上にわたる支援活動の中で、被災地では女性の仕事が少ないと感じるようになりました。そこで、亘理の女性４名が中心となって取り組む、古い着物生地を使った巾着（きんちゃく）袋づくりをサポートすることになりました。東京都内の大手小売店で販売も始まり、作り手の数は現在20名にのぼっています。今後は洋服の直しなどの仕事にも取り組み、他の就労につながるトレーニング機能も果たせればと思います。

震災による問題だけでなく、以前から東北にあった問題を、地域の方と協働して解決していきたいと思っています。そして、持続可能で活発な産業になるように、《支援する⇒される》という関係ではなく、共に望む地域を作っていく仲間という立場を大事にしたいと考えています。そして、その仕組みが新たなセーフティネットとして地域に残り、活動の波が全国に広がることを期待しています。そのためには、より多くの団体が密接に連携していく必要があると思っています。

共生地域創造財団のＨＰ
http://from-east.org/

封入手伝い募集

ＰＳＣ就労支援事業部は７月中旬に実施する「復興定期便」（仙台市からのお知らせ）の封入作業の従事者を募集している。

対象は東日本大震災が発生した２０１１年３月11日に【仙台市宮城野区】に住んでいた被災者。作業は太白区あすと長町のコミュニティ・ワークサロン（ＣＷＳ）「えんがわ」で行う。

７月18日から３日間、市のお知らせなど数種類の冊子を封筒に入れる作業を行う予定。午前と午後の１日２回、計３日間行い、参加者には、１回あたり２０００円相当の商品券を謝礼として支払う。１回当たりの作業時間は休憩時間を含め、３時間を想定している。

申し込みはＰＳＣ就労支援事業部・担当千葉０８０（４４２６）９８２４まで。

「えんがわ」のつぶやき　今できることを将来につなげたい

震災以前、地域福祉の取り組みを取材するため訪れた関西のある地域で、「阪神大震災がきっかけで」という話を聞いた。あの大きな震災後、地域のなかで住民、行政、民間団体、医療機関などが連携して、困っている方を支える仕組みを築きあげてきたという。その仕組みはとても上手くいっていて、日ごろから地域のなかでの支え合いが行われている。

一方、昨年３月下旬、兵庫県宝塚市から応援に来てくださった社会福祉協議会の職員に、「阪神大震災はまだ終わっていません」と言われた。「だから今できることをきちんとしましょう」と、その職員に強く励まされた。

状況は次第に変わり、全国ニュースでは震災に関する報道があまり取り上げられなくなってきた。復興に向け力強く動いている人たちや場所がある一方、何も変わっていない部分もある。見えないところで悪化していることもあるかもしれない。

その一つが仕事に関すること。仙台市の求人倍率は１倍を超えたとの報道があったが、仕事を求めて苦心している方も多くいらっしゃるようだ。

ＰＳＣでは仮設住宅にお住まいの方の見守り支援のほかに、就労支援をスタートさせた。青葉区二日町にオープンした就労支援相談センターの名称は『わっくわあく』。「ワクワクして前に進めるように」「いい仕事が湧いてくるように」などの意味が込められている。

私は就労支援を行っている事業所で、ソーシャルスキルトレーニングを行ってもいる。受講者が変るたびに、みんなで「仕事をすることのメリットとデメリット」について話し合う。真っ先にあげられるメリットは「お給料がもらえる」こと。次いで「親が安心する」「居場所ができる」などが出される。「生き甲斐ができる」という意見もあった。「人間関係が難しい」「時間に縛られる」という声も聞かれるが、それでも受講者はイキイキと就職活動をしている。

仕事をするのはワクワクと楽しいことばかりではないかもしれない。しかし、苦労以上の喜びがあればいいのではないかとも思う。

復興とは建物が建つとか土地が元に戻るだけではなく、ここに暮らす人たちみんなが元気になることだと思う。そのためには、喜びや生き甲斐も大切だと思う。本当の復興にはまだ時間がかかるかもしれない。「だから今できることを」私たちはやっていきたいと思っている。

（Ｋ）